

おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

ーピンクのハートー

NO. 14



先日、スーパーで握り寿司の桶（ちょっと奮発して…）を買おうと、レジに向かったとき、レジの方が急いでいたのか、「ピッ！」の後の扱いにスピードがあって、きれいに並んでいたお寿司がズブッと寄ってしまいました。家に持って帰ってから、「あ～あ」と笑いながらひとつひとつ並べ直して、「食べればおんなじだよ」と言いながら…それでもおいしく食べました。そこで文句を言ってしまったら、買い物からのせっかくの時間が台無しになってしまうような気がして、気持ちよく終わりたかったのですね。レジで換えてもらえばよかったんですかね～。

子ども達と過ごす中でもいろいろなことがあります。学校に迎えに行きクルマの中では上機嫌だったのに、あんずでの活動中に、思うようにならなくて踏んだり蹴ったりの結末に…。それでも笑って帰ってほしいので、折れた心をくっつけます。

その子は、胸を押さえて震える声で「ここにあるハートが大きくなって爆発しそうだよ」と。

その子の肩を抱きながら、「そのハートはどんな色？」と尋ねると、

「真っ赤だよ。怒った気持ちで大きくなってんだ。隣には、水色のハートがあるんだ…」と。

「水色のハートはどんなハートなの？」と、また尋ねました。

「悲しいハート。泣いているんだ…」と、ぼつり。



「ねえ、気持ちのいいハートって、どんな色しているの？」と、その子の胸をさすりながら聞きました。すると、

「ピンク色かな。あったかい色なんだ」と、ちょっとだけ笑顔に。

「じゃあさ、その赤いハートに水をかけちゃおうか。小さくなるかもしれない。顔が汚れちゃってるから、洗いに行こうか」と誘いました。

顔を洗ってきたその子は、「赤いハートがちょっと小さくなったよ」と、泣くのをやめました。

「あとは…、ピンクのハートを温めようね」と、その子の胸にしばらく手を当ててから、「どう？あったかくなった？」と問いかけます。

「もうだいじょうぶだよ。あったかくなった」

「そうか、よかった。じゃあ帰ろうか！」「うん！お母さん帰ろう！」



30分間くらいの出来事でした。その子は、その後も凹んでしまうときが何度もあります。時間があるときには、後ろから抱きしめて「今日は何点だった？」と聞きながら、その子の胸に手を当てて、0点が80点になるまで待ちます。「もうだいじょうぶだよ」の笑顔になるまでね。

心が痛くなるほどの描写です。みんながみんな、こんな言葉にはできませんが“どの子もこんな気持ちでいるのかもしれない”と、その子から教えられました。

できること、わかることを増やしていくために、ことばを育てていくために、私たち大人は、前に前にと子どもの背中を押しています。そして、もっと良い何かを探し求めます。でもね…、大事なこと…“いま、ここ”にあるピンクのハートなのかもしれませんね。(H29. 7) K